

西南学院大学博物館研究室訪問シリーズ 第2回 山根明弘研究室



西南学院大学 人間科学部社会福祉学科
山根明弘(やまね・あきひろ)教授

- 【研究】 動物生態学、生命科学、アニマルセラピー、人と猫との共存社会
生命倫理
- 【趣味】 無農薬有機野菜の栽培、西新界隈で孤独のグルメを楽しむこと
- 【愛猫】 ニャー子さん(写真)とゴロー君
- 【著書】 「わたしのノラネコ研究(さ・え・ら書房)」、「ねこの秘密(文春新書)」、「ねこはすごい(朝日新書)」など

- 1966年 兵庫県西宮生まれ。幼少期を六甲山の山麓で過ごす。
- 1989～1995年 九州大学大学院理学研究科に在籍。6年半にわたり相島でのノラネコの研究を行う。DNAによるノラネコの親子判定を世界で初めて実施。
- 1995～1998年 環境庁国立環境研究所にて、イリオモテヤマネコをはじめとする希少動物の保全研究を行う。
- 2000～2002年 京都大学霊長類研究所に在籍中、サウジアラビアに生息するマントヒヒの生態調査を実施。2011年までに10回の現地調査。
- 2002～2016年 北九州市立自然史・歴史博物館(いのちのたび博物館)にて、両生爬虫類担当の学芸員として、博物館業務に従事。その間も、ノラネコの研究も細々と継続。2014年には「まるごと猫展」をプロデュース。
- 2016年 西南学院大学に教員として着任。相島の借家をベースに、ノラネコ研究を本格的に再開。NHKの科学系番組「ダーウィンが来た!」のスタッフの協力を得て、オスネコによる子猫の見守り行動等を発見。
- 2019年～ 現職



研究室訪問シリーズについて

研究室訪問シリーズとは、西南学院大学の先生方が研究の合間にコツコツと集めてこられた貴重な個人コレクションや、長年の研究成果を博物館スタッフと協力して一挙公開するものです。普段は大学の教室や研究論文でしか知ることのできない先生方の研究をわかりやすく紹介します。大学における社会の窓口として、大学と地域社会の皆様とをつなぐ場となる大学博物館の使命を果たす企画です。

せいなんワークショップ 「教えて! あなたのネコ研究」

期間 | 2019年4月1日(月)～6月29日(土)
場所 | 博物館エントランス、1階廊下
対象 | どなたでも(自由参加)

山根明弘先生がノラネコ研究で活用している「個体識別カード」を、参加者がつくって展示します。近所のノラネコやお家で飼っている愛猫のことなど、ぜひ教えてください!参加者には博物館オリジナルポストカードをプレゼント!

アンケート特典

会期中、「ねこ学への招待」展アンケートにお答えいただいた方にオリジナルポストカードをプレゼント(数量限定)いたします!

山根明弘先生トークイベント & ミュージアムコンサート

日時 | 2019年5月25日(土) 13時～15時
場所 | 博物館2階講堂
対象 | 一般 (定員150名)
料金 | 無料 (事前申込み不要)

長年にわたり島猫の生態研究をおこなってきたネコ博士・山根明弘先生によるトークイベントです。展示の見どころや「ねこ学」の魅力に迫ります。トークイベント前には西南学院大学応援指導部吹奏楽団による猫音楽コンサートも開催します。

キミも今日からネコ博士!



Invitation to

Cat Studies
学への招待

入場無料

2018年9月22日・湯島にて撮影

2019.4.1 mon ▶ 6.29 sat

| 主催 | 西南学院大学博物館 | 後援 | 福岡市 | 協力 | 山根明弘研究室(西南学院大学人間科学部社会福祉学科)
| 協力 | 西南学院大学図書館 | 書肆 吾輩堂 | 長崎の町ねこ調査隊塾 | 一般社団法人博多ねこ99ネットワーク

西南学院大学博物館 SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM
〒814-8511 福岡県福岡市早良区西新3丁目13番1号

| 会場 | 西南学院大学博物館 1階特別展示室・2階講堂 Tel 092-823-4785 Fax 092-823-4786
| 開館 | 10:00～18:00(入館は17:30まで) 日曜休館 <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

西南学院大学

西南学院大学博物館研究室訪問シリーズII 山根明弘研究室

第1章 ねことキリスト教

キリスト教が誕生する以前から、ねこと人間は共に生きていました。ねこを現在のような家畜にしたのは古代エジプト人と言われていますが、家畜化したねこは、その後ヨーロッパ世界に持ち込まれ、キリスト教徒たちの生活にも溶け込んでいました。

中世のキリスト教徒が著した写本の中には、ねこの絵が描かれているものもあります。写本の中に描かれたねこたちは、生き活きとしており、どこかユーモラスで、キリスト教徒たちがこの動物に愛着・好奇心を抱いていたことがわかります。その一方で、ねこを敵視するキリスト教徒たちもいました。彼らは、ねこを魔女の化身・使い魔と考えて、この動物に対して残酷な仕打ちをしました。

このように、ねことキリスト教の関係の歴史には、正と負の両方の側面があります。これから先、ねことキリスト教はどのような関係を築いていくのでしょうか。その答えは、現代のキリスト教が「ねこ」という動物とどのように向き合おうとしているかに掛かっていると言えるでしょう。



◀ リンディスファーン福音書（複製）
原資料：700年頃／イギリス／羊皮紙、手彩色、宝石・貴金属
所蔵：西南学院大学博物館（原資料：大英図書館）



展示場で
探してみよう！
この二匹のねこは
どこにいるかな？



◀ トリノ＝ミラノ時祷書（複製）
原資料：1380-90、1420年／フランス
羊皮紙、手彩色
所蔵：西南学院大学博物館
（原資料：トリノ市立古典美術館）

特別展示

吾輩は猫である。名前はまだ無い。
——日本文学における、ねこ視点
小説のパイオニア。夏目漱石『吾
輩ハ猫デアル』の初版本を展示！

夏目漱石『吾輩ハ猫デアル』初版本（上中下）
1905-07（明治38-40）年
所蔵：書肆 吾輩堂



トピック① 湯島猫調査

島原湾に浮かぶ湯島は、猫が約200匹生息しており、近年「猫島」として注目を集めています。また湯島は、かつて島原・天草一揆の際に、島原と天草の人々が共に作戦を練ったと伝えられていることから「談合島」という異名も持っています。猫とキリシタンという二つの特色を有する湯島。本トピックでは、湯島を猫島と談合島という二つの側面からご紹介します。



第2章 ねこ学への招待

福岡県相島では、30年以上前からノラネコを対象としたフィールドワークが行われています。島に棲むノラネコのすべてに名前をつけて、その行動を長期間にわたり追跡する生態学的なアプローチは、ノラネコの社会や生態に数多くの発見をもたらしました。このような「ねこ学」研究の成果は、他の野生動物社会の究明へのヒントにもなり、世界の研究者からも注目を集めています。本章では、相島の「ねこ学」研究の成果について解説するとともに、30年前の研究資料や、現在使われている調査道具なども展示し、みなさんを「ねこ学」の世界へと誘います。また、こども達にも簡単にできる、街なかでのノラネコ調査の方法についても解説しています。



トピック② 猫と共に生きていく

本トピックでは、ふたつの団体「長崎の町ねこ調査隊塾」と「(一社)博多ねこ99ネットワーク」の活動を紹介します。この二つの団体は、「ねこ」と「ひと」が共生できる社会をめざして、さまざまな活動を行っています。本トピックを通じて、みなさんも「動物と共に生きていく社会」について考えてみませんか。



トピック②の展示は
2階講堂にあります。